

週末海外ケイビング

～韓国編～



森住貢一 (MORIZUMI, Koichi 東京スペレオクラブ所属 神奈川県在住)

はじめに

自宅の庭に洞窟があるのでない限り、洞窟に行くということは、旅行することになります。

もし、その旅行先が海外なら、遠征になります。いやいや遠征なんて無理、休めて土日に1日を足すぐらいしかないよ、という人でも行けるのが韓国でのケイビングです。

韓国の良さは、飛行機で2時間程度と近く、また道路も整備されているため、ソウルから洞窟のある場所まで、車で3～5時間というように、東京から鹿児島島の沖永良部島などに行くより手軽にいきます。

ただ、問題は車の手配です。韓国人は日本人と同じ程度車を所有しているため、ケイパーの知り合いを作れば足の問題はかなり解決します。また、韓国の洞窟は管理されており鍵がかかっている物が多く、基本は地元のケイパーと一緒にしか入れない洞窟がほとんどです。

韓国の洞窟はどんな感じ

石灰岩の質は日本の本州などにある石灰岩とほぼ同じで、しかも降水量や気温も似通っています。そのため、洞窟の雰囲気も同じようだと思ってもらえば良いでしょう。

ただ、そうは言っても遠征は遠征。向こうの文化に接しながら洞窟に入ることは、日本国内で活動することと違った楽しみがあります。

今年6月に、龍潭窟という洞窟に行った報告です。この洞窟は韓国の中央あたりにある寧越という町の近くにあります。

洞窟は山の中腹の斜面にあります。普段は誰も行

かないためか、そこまで登山道すらありません。しかし、山に入る林道の脇には、結構立派な看板が作られており、貴重な生物がいるなど書かれています。その看板のある場所と洞窟とはかなり離れており、誰が何のためにその看板を見るのか、また見てどうするのか、不思議な場所にある看板でした。

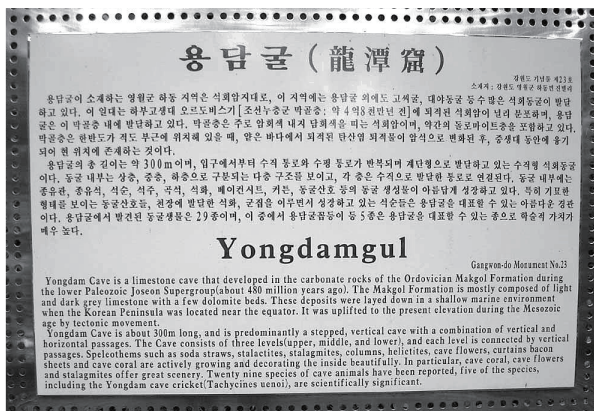
洞口は、山の斜面の小さな岩の隙間に開いており、這って入る程度の狭さです。洞口の鍵は地元の役場から借りていましたが、錆びついていたためガンガン鍵を叩いてやっと開けることができました。何しろ、ここ数年この洞窟には入っていないとの事です。

洞口からちょっと降りると、フローストーンの斜面となりSRTで降りることになります。結構壁面にロープが当たっていましたが、気になる場所をプロテクターで処理したセットでした。何回か、韓国の堅穴にSRTで入りましたが、ほとんどがナチュラルアンカーを使用しており、ボルトを打っているのを見たことはほとんどありません。もしかしたら天然記念物などの関係で、ボルト禁止なのかもしれません。

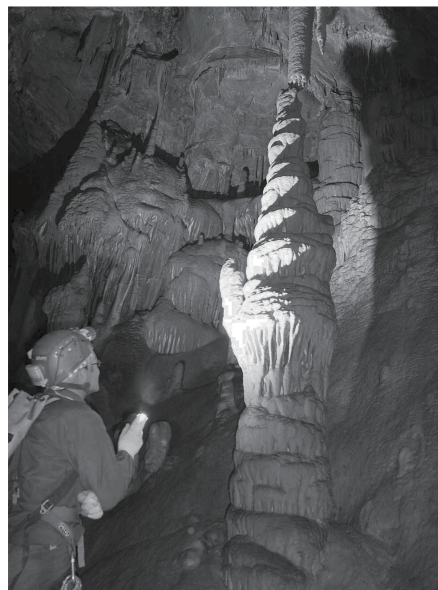
フローストーンが終わるとストーンと堅穴になり、10メートルほど懸垂下降になります。途中のエッジには、申し訳程度のプロテクターのみが付いているだけです。日本のように、リビレイやディビエーションを多用し極力壁にすらないようなセッティングに慣れていると、ちょっと不安を感じましたが、全くボルトを

打ってなくてもセットできているし、洞窟に対してのダメージも少ないため、一概に悪くもないと感じました。

降りきると木製の梯子の残骸がころがっていました。10メー



「龍潭窟」看板



「龍潭窟」石筍